

仙障だより

発行所

〒980-0022 仙台市青葉区五橋二丁目12番2号
仙台市福祉プラザ8階
社会福祉法人 仙台市障害者福祉協会
TEL 022-266-0294(代)
FAX 022-266-0292

発行人 阿部一彦
(題字 奥山恵美子市長の書)
定価 500円/年

平成25年度

仙台市障害者福祉大会開催

平成25年7月18日(木)、平成25年度仙台市障害者福祉大会を開催いたしました。

式典では、多年にわたり加入団体の活動に協力し、障害者福祉の向上に貢献された団体や個人の方々、障害者のスポーツに対するニーズに答えてこられた方々など13名に阿部一彦会長から感謝状が贈られました。

式典に引き続き、神戸市代表監査委員、関西学院大学復興制度研究所研究員・同非常勤講師の桜井誠一氏を講師としてお迎えし、「障がい者から学んだ生活再建への道筋」をテーマとした基調講演を行いました。

また、各加入団体の団体長を交え、「私たちの取り組み、そして元神戸市広報課長からのアドバイス」と題したトークセッションを行いました。



大会風景

平成25年度 仙台市障害者福祉大会 感謝状の贈呈

次の方々に感謝状が贈呈されました。

◆ 多年にわたり当協会加入団体の活動に協力し、障害者福祉の向上に貢献された方々
仙台市ソフトボール協会審判
(仙台市グランドソフトボールクラブ審判)

金 森 輝 男 様
佐 藤 哲 也 様

◆ 多年にわたり障害者による書道・写真・絵画コンテストの審査員として、障害者の文化芸術活動の推進に寄与された方
公益社団法人日本写真協会会員
竹 内 正 様

書禅会師範
丸 山 葉 子 様

◆ 多年にわたり障害者ボウリング大会等に協賛し、組織活動の推進に貢献された方
有限会社くすりの安心 堂
代表取締役
渡 邊 寛 和 様

◆ 多年にわたり仙台市障害者スポーツ指導員として、障害者のスポーツ振興と自立の促進に寄与された方

◆ 多年にわたり仙台市障害者相談員として、障害者の福祉の発展に活動貢献された方
赤 坂 健 二 様
須 賀 佳 代 子 様
高 橋 貞 夫 様

◆ 当協会職員として十年以上にわたり継続勤務し、業務の伸展に寄与された方
寺 山 な お 子 様
内 海 秀 晃 様
田 中 純 子 様
伊 藤 直 美 様
早 坂 友 子 様

第48回 仙台市社会福祉大会

平成25年9月2日(月) 仙台サンプラザホールを会場に、第48回仙台市社会福祉大会が開催されました。

本大会では、奥山恵美子仙台市長より団体活動を通じて福祉事業に貢献されたボランティア等に対して感謝状の贈呈が行われ、当協会が推薦いたしました次の方々が贈呈を受けました。

仙台市長感謝状
手話奉仕員
高橋 明美様

要約筆記奉仕員

林田 由美子様
遠山 至様

点訳奉仕員

佐々木由美子様
澤谷 すみ子様

色摩 啓子様
宮川恵美子様

朗読奉仕員

市川 厚子様
川添 知子様

佐藤 恭子様
杉渕 直子様

星 明子様
太白障害者福祉センター

櫻井 さだ子様

仙台市社会福祉協議会会長よりボランティア活動に参加し福祉向上に貢献されたとして、次の方々に感謝状が贈呈されました。

朗読奉仕員

石塚 洋子様
猪飼とみ子様

点訳奉仕員
佐藤 利子様
茂泉 昭子様

仙台市社会福祉協議会会長から社会福祉施設の職員で功績顕著な職員に感謝状が贈呈されました。

太白障害者福祉センター
鈴木 成 貴 様

本大会の席上において、当協会阿部一彦会長から自立更生者(4名)、更生援護功労者(5名)、内助功労者(1名)に対して次のおり表彰状及び感謝状が贈呈されました。

自立更生者

大場 敬様
馬場 元子様

木村 正雄様
若生すゑ子様

更生援護功労者
伊藤 圭子様

鳴原 真一様
穴戸 勝明様

浅野 順一様
中村 経子様

内助功労者
佐藤キエ子様



仙台市からのお知らせ

◆車いすを使用されている皆様へ健康診査を受けてみませんか

対象者

脊髄損傷、脳性麻痺、脳血管障害等の原因疾患により身体障害者手帳をお持ちで日常生活において車いすを使用している在宅の方。

(施設入所の方、入院中の方、褥瘡・変形・膀胱機能障害等で通院治療中の方、特定健康診査等受診済みの方は除きます。)

実施期間

平成二十五年十月一日～平成二十五年十一月三十日まで

費用負担

受診者負担額は無料となります

申込み先及び問い合わせ先

お住まいの区の区役所保健福祉センター障害高齢課または宮城総合支所・秋保総合支所の保健福祉課

検査項目

・問診・身体計測・理学的検査
・血圧測定・尿検査・心電図検査

・血中脂質検査(中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロール)

・貧血検査・肝機能検査(AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GT(γ-GTP))

・腎機能検査(血清クレアチニンeIGFR値)

・血糖検査(ヘモグロビンA1c)

・眼底検査・X線検査

福祉まつり

「ウエルフェア2013」
―障害者週間記念式典―

福祉まつり「ウエルフェア2013」(障害者週間記念式典)を開催します。是非お誘い合わせの上、ご来場下さいますようお願い致します。

日時 平成25年12月8日(日) 13時

場所 仙台市福祉プラザ2階

内容 ふれあいホール

障害者週間記念式典、トークライブ(予定)

仙台市障害者による

書道・写真・絵画

コンテスト入賞作品決定

仙台市障害者による書道・写真・絵画コンテスト(第28回障害者による書道・写真全国コンテストの予選を兼ねる)の審査会が8月29日(木)に行われ、審査の結果、身体障害者部門については、書道の部6点、写真の部7点、絵画の部6点選ばれました。

なお、入賞作品は次のとおりになります。(☆印の作品は全国コンテスト推薦作品、○印の作品はポर्टレートとして全国コンテスト推薦作品)

書道の部

金賞

☆畠山 浩子

「朴の花猶青雲の志」

銀賞

小林 知子

「二条街の半東」

☆佐藤 殊菜

「風」

☆瀬尾 和子

「本来無一物」

銅賞

石山 寅夫

「歳月人を待たず」

☆柴崎 優美

「風」

写真の部

金賞

○千葉 弘

「音色高らかに」

○佐山 修基

「セクシーダンシングまや」

銀賞

☆河本 悟

「花のカーペット」

☆佐々木 宏喜

「ふたつの恋」

銅賞

☆川村 みさ子

「会津へ行くなら今でしょ!」

○三浦 正利

「静寂」

佐藤 勝利

「松本城」

絵画の部

金賞

伊藤 繁

「こもれび」

三河 美喜子

「花火」

銀賞

遠藤 和夫

「田植え後の風景」

銅賞

若生 すゑ子

「秘めた想い」

秋山 祥子

「百合」

小山 昭

「黄色の牡丹」

平成25年度

「心の輪を広げる体験作文」

「障害者週間ポスター」

— 選考結果 —

仙台市内の方を対象に、自分自身の体験を通じて、共生社会について考える「心の輪を広げる体験作文」と「障害者週間ポスター」の募集を行いました。応募多数の中から選考を行い各部門の最優秀賞が決定しました。

なお、選考結果は次のとおりです。

心の輪を広げる体験作文

【小学生部門】

板波 莉央さん

(仙台市立八幡小学校6年)

「見えない障害と今の日本」

【中学生部門】

小山 世利那さん

(仙台市立郡山中学校2年)

「差別のない、笑う日本へ」

【高校・一般部門】

及川 智さん

(一般)

「学校での思い出」

障害者週間ポスター

【小学生部門】

菅原 楓花さん

(仙台市立沖野小学校4年)



【中学生部門】

先崎 まこさん

(聖ドミニコ学院中学校1年)



居宅サービス事業及び

訪問サービス事業の ヘルパーを募集してま

仕事の内容

○主に視覚障害者に対する同行援護(移動時等での視覚的情報支援・移動支援等のガイドヘルパー業務)

○障害者総合福祉法に基づく居宅介護、重度訪問介護、同行援護及び介護保険法に基づく訪問介護、介護予防訪問介護に係る介護業務

必要な免許・資格

ホームヘルパー2級以上

賃金

時間額1,050円(基本給890円、処遇改善手当160円)その他、事務手当、研修等手当、待機補償手当、通勤手当(日額300円)

問い合わせ先

社会福祉法人仙台市障害者福祉協会
電話022-266-0294

災害対応に関する ワークショップ

平成25年10月14日(月)、仙台市福祉プラザにおいて、東北福祉大学総合福祉学部における文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業助成の研究の一環として、障害者に焦点を当てた災害対応に関するワークショップが開催されました。

身体障害分野として相澤新弥副会長をはじめ当協会の加入団体の



皆様など29名が参加されたほか、知的障害、精神障害、発達障害、てんかん、難病の各分野から計12名が参加されました。

同志社大学社会学部立木茂雄先生ほか東北福祉大学等の先生方の指導のもと、7グループに分かれて、東日本大震災を振り返り、震災当日、発災から100時間後、1,000時間後、10,000時間後の各時点において困ったことなどについて、参加者一人ひとりが出し合うことにより、災害時の課題が時系列的に浮き彫りになりました。

東北・北海道ブロック 身体障害者団体連絡会

「災害時の応援に関する 協定」締結

東北・北海道ブロック身体障害者団体連絡会の各加盟団体では、東日本大震災の教訓を受け、「災害時の応援に関する協定」を締結いたしました。

本協定書の内容は、次のとおりです。

(趣旨)

第1条 この協定は、東北・北海道ブロック身体障害者団体連絡会の加盟団体が活動するいずれか

の地域において、災害対策基本法(昭和36年法律第223号)第2条第1号に定める災害が発生したときその相互応援について必要な事項を定めるものとする。

(応援の内容)

第2条 応援の内容は、次のとおりとする。

- (1) 食料、飲料水および生活必需品等の提供
- (2) 障がい者が日常必要とされる別表に掲げる物資等の提供
- (3) 障がい者の救援等に必要となる職員、ボランティアの派遣
- (4) 施設利用者の受け入れ
- (5) 前各号に掲げるもののほか特に要請のあった事項

(応援の手続き)

第3条 応援を要請するとき、次の事項を明記して文書により要請するものとする。ただし、緊急の時は、口頭、電話若しくは電信により応援を要請するものとする。

- (1) 被害の状況
- (2) 前条第1号及び第2号に掲げる応援を要請する場合にあっては、物資等の品名及び数量
- (3) 前条第3号に掲げる応援を要請する場合にあっては、必要とされる職員の職種或いは

障がい者が日常必要とされる物資等

肢体障がい者用	車イス 手押し型車イス 歩行器 携帯用トイレ 紙おむつ トイレ用目隠しテント 松葉つえ 歩行補助つえ 体温調節困難者用として使い捨てカイロ・防寒用ひざ掛け・毛布等
視力障がい者用	携帯ラジオ 盲人安全つえ 携帯用点字版 音声時計・触知式時計
聴力障がい者用	発電機 懐中電灯 パトライト 補聴器 筆記用具等
膀胱又は直腸機能障がい者用	ストマ用装具(採便袋・採尿袋・皮膚保護薬品・さらし・ガーゼ脱脂綿等) 湯沸かし器 トイレ用目隠しテント
呼吸器機能障がい者用	濃縮酸素の濃縮機・液体酸素ボンベ 携帯用酸素ボトル 酸素電気
咽頭摘出者用	携帯用会話補助装置(人工咽頭)・電池 筆記用具
その他必要な物資	

(4) ボランティアの種別、人員及び現場での従事内容
前条第4号に掲げる応援を要請する場合にあっては、受け入れを要する人数、氏名、

性別、年齢、障がいの程度及び状況
(5) 応援場所及び応援場所への経路、現場付近の状況
(6) 応援の期間及び必要とされる装備品
(7) 前各号に掲げるもののか必要な事項
(経費の負担)
第4条 応援に要する経費の負担は、法令その他別に定めがあるものを除くほか、次のとおりとする。
(1) 食料、飲料水及び生活必需品等の提供に要する経費は、原則として応援を受けた側
(2) 職員、ボランティアの派遣に要する経費は、応援を行う側
2 受け入れに要する経費は、別途協議することとする。
(連絡責任者)
第5条 第3条の規定による応援の手続きを緊急時において確実かつ円滑に行うため、それぞれの団体内に連絡責任者を置くものとする。
(その他)
第6条 この協定の実施に關して必要な事項及びこの協定に定めのない事項は、その都度協議

して定めるものとする。
(施行日)
第7条 この協定は、平成25年7月3日から施行する。
福祉避難所の設置及び管理運営に係る協力に関する協定締結
当協会では、仙台市と福祉避難所の設置及び管理運営に係る協力に關する協定を締結しておりますが、財団法人仙台市障害者福祉協会法人の解散及び社会福祉法人仙台市障害者福祉協会への事業継承に伴い、改めて協定の締結を行いました。
福祉避難所指定施設は、仙台市宮城野障害者福祉センター、仙台市若林障害者福祉センター、仙台市太白障害者福祉センターの3施設となり、仙台市に地震、風水害その他の災害が発生した場合において、指定避難所での避難生活が困難な要援護者(災害時に居所からの避難が必要となる方で、避難所生活に特別の配慮を要する高齢者や障害者の方々)のために開設する福祉避難所となります。
福祉避難所で行う事業は、福祉避難所の設置及び維持管理並びに受け入れた要援護者に対する日常

生活上の支援を含めた相談事業を行います。
働く身体障害者の相談支援業務窓口を設置します
平成25年度働く身体障害者からのメッセージ発信事業事務局からの依頼を受け、当協会において、平成25年9月18日より働く身体障害者の相談支援業務窓口を設置しています。
相談受付内容
○就職や職場復帰に向けた家族の支援のあり方、事業主との連携・協力のあり方について
○地域の重度身体障害者の就労支援に關する制度や諸機関の活用について
○その他重度身体障害者の職業的自立に關する事項について
○自営・起業等に關する専門的な相談について
相談窓口
全国手話研修センター
電話 075-864-6302
FAX 075-864-6303
仙台市障害者福祉協会
電話 022-266-0294

FAX 022-266-0292
日本盲人社会福祉施設協議会
電話 03-3353-1277
FAX 03-3353-1279

相談日時

全国手話研修センター、仙台市障害者福祉協会
毎月第1・3週 水曜日
13時～17時

毎月第2・4週 木曜日
13時～17時

日本盲人社会福祉施設協議会

毎月第2・4週 木曜日
13時～17時

相談方法

来所または電話・FAXによる

平成25年度

川崎市社会福祉協議会
障害者団体部会リーダー

研修意見交換会

平成25年8月20日(火)、仙台市福祉プラザにおいて、平成25年度川崎市社会福祉協議会障害者団体部会からリーダー研修として16名が来仙され、防災対策についての意見交換会が開催されました。

当協会からは、阿部一彦会長、相澤新弥副会長、松本克之副会長をはじめ、当協会の加入団体の皆様など20名が参加されました。

仙台的参加者から、東日本震災当日及びその後の状況や、東日本震災を振り返って地域の方々とのつながりについてどう考えるかなど、それぞれの障害の立場において体験したことを述べ、それに対して川崎市社会福祉協議会障害者団体部会の方々の意見交換を行いました。

第二十四回

仙台市身体障害者

家族ぐるみ運動会

平成25年9月1日(日)、宮城野体育館で第20回仙台市身体障害者家族ぐるみ運動会を開催しました。

一般競技のけつ圧測定では、風船がなかなか割れず、参加者全員が応援するなか、やっと風船が割れ歓声がわきあがりました。また対抗戦では、優勝に向かって各區一丸となって競技に参加されました。

なお、対抗種目の結果は、次のとおりです。

- 優勝 若林区
- 第二位 太白区
- 第三位 泉区
- 第四位 宮城野区
- 第五位 青葉区

第五十四回

政令指定都市身体障害者

福祉団体連絡協議会

第四十四回

政令指定都市身体障害者

親善スポーツ大会

9月7日(土)、福岡市のホテルニューオータニ博多で各政令指定都市13団体が参加し政令指定都市身体障害者福祉団体連絡協議会が開催されました。

連絡協議会では、全体会議で前回の開催都市京都市から決議事項の処理状況について報告があり、また、今回各都市から提案された議題を分科会に付託しました。分科会では、各政令指定都市から提案された議題について団体長部会・肢体障害者部会・視覚障害者部会・聴覚障害者部会・難聴障害者部会・内部障害者部会に分かれて協議を行いました。

9月8日(日)は、政令指定都市身体障害者親善スポーツ大会(ボウリング競技)が博多スタジアムで開催されました。仙台市チームは10名参加、敢闘賞として三浦紀子さんが表彰されました。

仙台市身体障害者

レクリエーション教室

「俳句教室」を実施しました

平成25年9月30日(月)に、身体障害者の文化・芸術活動を振興する一環として、仙台市身体障害者レクリエーション教室「俳句教室」を実施しました。81名のご参加をいただき、山形県村山市にある東沢バラ公園を散策した後、東紅苑で昼食として芋煮をいただき



ました。そして一人2句ずつ俳句を詠み上げていただきました。また、その中から、講師の佐藤きみこ先生と浪山克彦先生に、各々、次の特選3句の選句をしていただきました。

宮城県俳句協会常任幹事

選者 佐藤きみこ氏 選

はなやぎも 憂いも連れて

秋のバラ

安斉 信子

バラの紅 紅蓮の炎 忘れたい

猪狩よし子

公園のバラ 遠景に 友愛像

笹木 和江

宮城県俳句協会監事

選者 浪山 克彦氏 選

初恋を 夢見るように 白薔薇

三浦 紀子

芋汁に 父母のおもかけ

かいまみる

松野 倫子

朝霧に 香り包まる ばらの花

後藤 彌生

第13回

全国障害者スポーツ大会

「スポーツ祭東京2013」

結果報告

平成25年10月12日(土)～同14日(月) 東京都において「第13回全国障害者スポーツ大会・スポーツ祭東京2013」が開催されました。

本大会において仙台市選手団

(身体障害者関係)は、個人競技で金メダル1個、銀メダル2個、銅メダル6個の合わせて9個のメダルを獲得しました。

また、団体競技では、車いすバスケッボールが三連覇を達成いたしました。

なお、仙台市選手団(身体障害者関係)のそれぞれの競技結果については次のとおりです。

第13回 全国障害者スポーツ大会仙台市選手団出場競技結果

個人

氏名	競技種目	結果	競技種目	結果
尾形 秀樹	800m走	銅メダル	200m走	銅メダル
齋藤 亜美	走幅跳	銅メダル	100m走	銅メダル
舘澤 紘一	100m走	第5位	200m走	銅メダル
滝口 義光	25m自由形	銀メダル	50mバタフライ	金メダル
志賀 孔	一般卓球	銀メダル		
千葉 文児	サウンドテーブルテニス		銅メダル	
佐藤 由基	フライングディスク (アキュラシー5)第7位		(ディスタンス) 第7位	
伊藤 孝夫	フライングディスク (アキュラシー3)第7位		(ディスタンス) 第8位	

団体

車椅子バスケットボール	金メダル
-------------	------

加入団体の活動だより

仙台市聴覚障害者協会

事務局長 菅原 伸哉

本協会は、今年で創立35年目を迎えました。聴覚障害者の情報保障、災害時の支援・対応、福祉向上に取り組んでおります。本協会会員は現在約180名、そのうち60歳以上の会員は100名以上で高齢化が進んでいます。20年前は300名近い会員数でしたが、若年層が少ないうえに全体を見ても減少傾向にあり、大きな課題になっています。役員は20名程で、中



には30年以上役員を務めている素晴らしい先輩方がおりますが、やはり高齢化に伴い体調に留意しながら……といった感じです。

事務所に多く訪れるのが、長い間交流を続けている60〜80歳代の方々です。東日本大震災から2年半……。沿岸部はもとより、仙台市中心部においても、震災直後のろう高齢者の生活は苦勞が絶えませんでした。ろう高齢者と言っても、筆談ではなく身振りが比較的通じやすい方、携帯電話や運転免許を持っていない方、震災後に多く見られた自転車での移動も難しい、さらには歩くのもやっとな、という方もいらっしゃいます。

緊急事態の最中、聴覚障害者の情報格差が浮き彫りになり、周囲とのコミュニケーションの壁を感じることもしばしばありました。写真は、ろう高齢者が震災後に被害のひどかった被災地を回ったものです。震災では津波があったことさえしばらく後に知ったろう高齢者。情報が遅れ、取り残されるろう高齢者を対象に被災地の現状を知る研修を行ったのです。

さて、毎年6月、全国各地から3000人以上が集まる全国ろうあ者大会は6年後に仙台市で開催されることが決まっております。

今年山形県で開催され、山形の底力を見たような大会でした。会場に足を踏み入れた時の雰囲気から、やはり全国規模は違います。

他県の活動を参考にしながら、実行委員が中心となって一致団結して進めなければならぬ重要な行事です。協会の高齢化が進み、今後の活動に不安を感じずにはいられません。大震災から一歩ならぬ数歩進んだ宮城を、全国の参加者に見ていただきたい、そのためには本協会と共に歩むボランティアの方々が少しでも増えてくれれば……と願っています。一丸となって頑張っていきたいと思えます。

賛助会員募集のご案内

当協会は、障害当事者団体として、多くの人々や組織とつながり、互いに支え合う最も信頼される組織を目指し、障害者福祉の視点から誰もが暮らしやすいまちづくりを推進するとともに、障害があっても生きがいや働きがいをもてる社会づくりに取り組めます。

ご賛同いただける市民の皆様を対象に、賛助会員を募集いたしておりますので、是非ともご入会ください。是非ともご入会ください。是非ともご入会ください。

特典

- ① 会報「仙障だより」年4回 (4月・7月・10月・1月) をお届けいたします。
 - ② 主催事業等の案内をお知らせいたします。
- 年会費
1口 2,000円

入会ご希望の方、またお近くにご協力いただける方がおられましたら、当協会法人本部・事務局までご連絡お願いします。

ご提供ください 車いす・特殊寝台

当協会では、リサイクル可能な福祉機器を譲り受けて、洗浄、消毒、修理等のメンテナンスを行い、福祉機器を必要とされる方に提供する福祉機器リサイクル推進事業を行っております。リサイクル対象機器の譲り受けは無償としておりますが、譲渡される福祉機器の配達料は自己負担とさせていただきます。

なお、譲り受けの待ち状況で、特に車いすを希望される方が多数おられますので、使用になつていないリサイクル対象機器の車いす、特殊寝台やエアーマットをお

持ちの方は譲りくださるようお願い致します。

- ・リサイクル対象機器
車いす(電動不可)
- 特殊寝台(二クランク以上の電動のみ)
- エアーマット
- (ポンプ・マットが使用可能なもの)

- ・譲り受けの待ち状況
(平成二十五年九月三十日現在)
- 車いす希望者 十四名
- 特殊寝台希望者 七名
- エアーマット希望者 四名

居宅サービス事業所及び 訪問サービス事業所の 愛称を募集します!!

当協会では、平成25年4月より開所した居宅サービス事業所及び訪問サービス事業所について愛称を募集します。分かりやすい言葉で、利用される方に親しまれる愛称をご提案ください。

応募方法は、ハガキに、①住所 ②氏名 ③電話番号 ④愛称 ⑤愛称に込めた意味を記載のうえ、11月30日(土)までご応募願います。皆様のご応募、お待ちしております。